

WCCC Batumi 2023 参加記

泰永三二郎

今回の世界大会ですが、正式名称は、65th World Congress of Chess Composition と 46th World Chess Solving Championship が併記されています。会期は 2-9 September, 2023 となっています。場所はジョージアの西の端、黒海沿岸の港湾リゾート地 Batumi。

今年 4 月末頃いわゆる観る将的な立ち位置で世界大会に参加可能かどうか、若島先生に打診しました。「そもそも家族連れで参加する方も多いので、全く問題ないですよ。」との心強いお言葉があり、参加を決意しました。そもそも Chess についてはほぼ素人同然な私が、どうして Chess Problem の世界大会に参加したいと思ったのかは説明が必要かもしれませんが、一言「行って見たかったから。」と答えておきます。世界大会には興味があったし、ジョージアは以前から気になる国でした。ただ過去の諸氏による参加記に比べて Chess 要素が極端に薄くなります。こんなのもありかとお許してください。

コロナ禍で海外旅行が久し振りだったので、スマホとクレジットカードがあれば「ま、何とかなるべ。」精神でした。これが裏目にやりました。詳しくは後ほど。

元々ホテルで Wi-Fi は可能とのことでしたが、興味があったので出発数日前に

ネットでジョージア用の eSIM の申し込みをする。1GB/7week で \$5 からある。念のため 2GB/2 週間のを購入。\$10 でした。こんな契約が家にいて出来る。いい時代です。ただ当然アクティベートは現地に行ってからとなる。eSIM の使用は初めてなのでうまくいくだろうか。

9/2

出発便は夜 21:55。若島先生と落ち合う時間はその約 2 時間前。だから 17:00 台に空港に到着すれば余裕かと考えたが、生憎当地からの直行バスの運行時間の関係で最も遅い便でも 15:00 くらいの到着になる。逆算すると家出る時間は午前 11 時頃となり、早過ぎるが田舎住まいの宿命で仕方がない。

空港に到着後現地で使用するお金を準備する。持ってきた日本円を一旦汎用性の高い米ドルに替えてそれを現地でジョージアなりに替える算段。現金はメシ時の呑み代と街中で買う土産物程度だろうと考えて、ちょっと余裕を見て 4 万円を米ドルに換金することにした。それにつけても円安がねえ。とは言え流石に 360 円の時に海外旅行はしたことないですが、270 円くらいの時はあった。西ヨーロッパへの直行便は 11 時間程度だったような記憶があり、今回の目的地は黒海の東海岸の国だから大分短いだろうと勝手読みをしていたら大違い。そもそもイスタンブール経由 Batumi の経路なので、日本〜クロアチアくらいの総飛行距離はある。それにロシア上空を飛ばない経路であることも大きかったようで、イスタンブールまで 13 時間ほど

と予想外に時間がかかりました。そこから乗り継ぎで Batumi まで 2 時間弱。ジョージアは日本との時差が 5 時間でトルコは 6 時間あります。

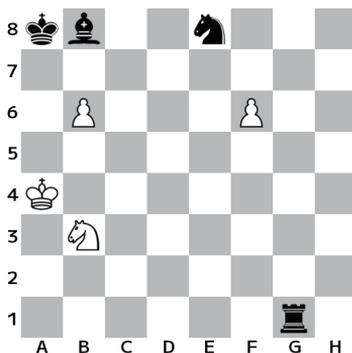
9/3

Batumi の空港に到着してスーツケースが出てくるのを待っている時、一人の紳士に話しかけられる。いきなり会場のホテルまで相乗りで行かないか？との提案で、私のことを目的地が同じ同類と認めたらしい。その時若島先生は通関手続からまだ出て来ていなかったの、面識のない私を WCCC に来た人間と考えたのは、よく考えると不思議。

ホテル到着後大会のレジストレーションが一応済んで、id カードと公式グッズが入った袋をもらった。驚いたのは 2019 年の白が一本入っていたこと。ジョージアはワインどころらしく WCCC に因んだ特製のラベルのもの。



このラベルの盤面が気になりますね。図面と文字の英語のところだけ書き写してみます。



#71 - David Gurgenzidze, 1985
White to play and win

Bottled for 65th World Congress of Chess Composition
Dry White Wine 2019
Bottle Number: 298/700
Alc. 11.2% Product of Georgia
750ml.

英語（ローマ字）以外の表記はジョージアの文字っぽい。ギリシア文字ともキリル文字とも違う、丸文字風の柔らかい文字です。試しに少し書き写してみます。多分ワインのブランド名です。

რქანიფერი

フォントの違いもありそうでタイプした文字とラベルに印字されている文字が同じかどうかの判読が難しい。間違いがあるだろうなあ。その場合はゴメンナサ

イ。この文字に詳しい方がいましたら訂正してください。

このすぐ下に対応するであろうローマ字表記があります。何かか先程の文字列より1文字多い……。

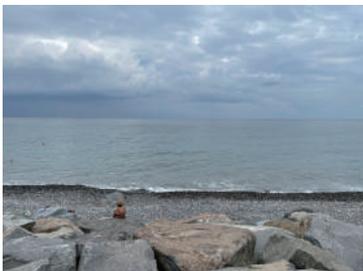
RKATSITELI

9/4

10:00 ~ 13:30 の 予 定 の open solving。第一ラウンド（90分）の開始の合図を待つ若島先生。



私は競技に参加しないので、ホテルの外を散歩する。まずビーチに行くとまあまあの波。チラホラと海水浴客がいる。



Batumi は黒海の東南の端になるの

で、正面はざっと西の方角となる。ということは対岸はウクライナ。クリミア半島とか、オデーサとかじゃないか。また写真右手の方向に海岸沿いにずっと行くと（250kmくらい？）ロシアとの国境を超えて冬季オリンピックを開催したソチがあります。

その後スーパーマーケットを探しに街の方へ。買いたいものは歯磨きチューブで、店内を物色していたらコルゲートの名前を発見。古い方はこの名前に見覚えがあるでしょう。ワインとか酒類も色々並んでいるので土産はここで買えそう。ジョージアはワイン発祥の地と言われています。Sake Tourny の賞品の日本酒を詰めてきた代わりにワインを持って帰ることになる。

夕食のときに会場で Michel Caillaud 氏に遭遇。写真を頼んだら快く応じてくれました。



9/5

初日のレジストレーションで現金（それもユーロだけ）のみということで払えなかった参加料。参加料（含宿泊代金）をキャッシュで払うには到底足りない。必要な現金をゲットするべく気合を入れ

て街に繰り出す。

ホテル近くのモールに入ると、クレジットカードでキャッシング出来るATMがすぐに見つかる。画面のインストラクションが全然読めない文字で一瞬ビビるが、言語選択のボタンらしき中にEnglishを見つけて先に進む。今回普段使い分けしているカードを念の為3枚持って来た。その中に一枚だけキャッシング出来るように設定したカードがあった。他の2枚はキャッシングしない設定になっていたのだ。ヤバかった。次の関所は暗証番号だ。普段暗証番号を入力するような使い方はしないので、自分の記憶に確信が持てない。もっともありそうな第一候補は何度かトライしたがエラー表示でダメ。ただダメの理由が暗証番号が違うと明確に表示されないため他の原因かと思ひ悩む。いつの間にか自分の後ろに列が出来ていて焦る。一旦撤退して最後尾に並び直す。DFにバックパスしてリトリート、ってやつですね。次に第二候補にトライするがこれも拒否される。こりゃダメか、明日出直しかと気持ちを切り替えて土産を調べることにする。

昨日目星をつけておいたスーパーに入って土産のワインを買って帰路に着くが、もう一回やってみようと気を取り直して先ほどとは別のATMに挑戦してみる。

機械は変わったがやはりダメ。ところが今回は暗証番号が違うと明確に表示された。一歩前進。しかし自分が使いそうなコードが思い出せない。諦めて帰ろうかと20mほど歩いたところで、待てよ。そもそもそのカードはいつ作ったのか。確か1993年くらいにパソコン通信

(古い!)を始めるにあたってカードが必須だったので必要に迫られて作ったものだった。最近のことはすぐ忘れるのに、昔のことは結構覚えている。その頃の自分の命名規則は今とは違うのだ。30年前の自分が使いそうなコード、と言うことで第三の候補を思い出す。ATMに戻ってやってみたらbingo!一度に換金出来る限度が100ドルだったので、何度か繰り返さないと行けないという手間。2回繰り返したところで、店内からおじさん登場。何か私に言っている。このATMはもう使えないらしい(意識)。そこで場所を変えて最初にトライしたATMに移動する。今度は当然無事に現金化出来た。

続いてドルからユーロに両替をしなければならぬ。どうしてATMから直接ユーロに現金化しないのかって?それはATMで現金化出来るのは、US\$が現地通貨の二択だったのだ。なんと面倒くさい手順だし、交換するたびに手数料が掛かって不利になるが、今はそんなことを言ってる場合ではない。なんちゃらpayで一発で出来るようにしてくれよ、とブツブツ思いながら近くの両替窓口に行く。必要なユーロの額を伝えてそれに必要なドルを聞く。うん足りるぞ、多分。ドル札を渡す。ここで最終目標のユーロ紙幣を貰えば今日のミッションはコンプリートのはず。ところが、両替屋の兄ちゃんが突然悲しそうな顔になる。ユーロの手持現金が少し足りないのだった。「ナンだよ、それ。」と思わず突っ込む。「これだけしか替えられないがそれでも良いか?」そりゃダメだ。

一旦撤退して他の両替屋がないかとし

ばらくモールの中を歩いてから戻って
みたら、お兄ちゃんがニコニコしてい
る。何か言っているが多分「替えられる
よ。」って意味だろう。彼の英語もカタ
コトなので会話の内容は全部私の想像で
す。そんなスッタモンダの末、ようやく
必要なユーロが用意出来たとき。ちゃん
ちゃん。

9/6

出発以来胃腸の調子が悪くスッキリし
なかったし、昨日の頑張りもあって疲れ
気味で昨夜は睡眠が浅かった。もしかして
軽い風邪かもしれない。朝食は少量に
して日中は部屋でおとなしくしよう。あ
とで考えてみると、コロナの症状だった
かもしれない。旅先でコロナだなんて考
えたくもないが。

夕食の頃には体調が戻ってきた感じ。
夜 20:00 より solving show、念のため
後ろの方の空いた席に座る。何をするの
かと思っていたら、#2、h#2、s#2 の
3 題をセットとして何ラウンドかする解
答競技のようだ。若者も割合沢山参加し
ている。



9/7

excursion の日。この日は日中他の行
事は設定されていない。家族連れに参加
者も多く、観光バスで植物園へ行く。

10:35、park に到着。上天気。とこ
ろがそこから先が進まない。看板には
Open: Tuesday, Wednesday, Friday,
Saturday とある。ところが今日は木曜
日。ん？もしかして今日は休館日？まさ
か、そんな！開館日をチェックしてい
ないなんてありえないだろう。基本のキが
なってない。再びバスに乗って別の施設
へ行く。最初の植物園の時と同様ここも
一切状況説明はなく、ガイドも無い。「皆
さんご自由に散策ください。」的なスタ
ンス。

公園は木の彫刻が散発的に置いてあり、
また有名人の銅像がそこここにある、
それにまつわる音楽がながれている。と
ころが銅像になっている音楽家の選択に
一貫性が見られず、困惑。最初は地元
出身の音楽家を集めたのかと思ったら、
バッハにパバロッチ、ルイ・アームス
トロングにホイットニー・ヒューストン
と出てくると訳がわからない。



上の写真はレイ・チャールズ。ところ

が流れている音楽は「我が心のジョージア」じゃない。洒落が決まっていたのに！、と若島先生と二人で残念がる。

散策を始める時、「〇〇時までにはバスに集合して下さい。」とかアナウンスするんじゃないの、普通。紳士淑女の集まりだと問題ないのだろうか。そのまま何の説明もないまま、ホテルに戻って解散。

散策中若島先生と詰将棋の話、チェスプロブレムの話、教員経験の話、映画の話その他昔話など沢山おしゃべり出来て超楽しい時間でした。

9/8

18:00 からの closing ceremony に先立って、16:00 から unofficial prize giving がありました。その中で若島先生主催の sake tourney の表彰の様子が次の写真。実はこの賞品の日本酒（の半分）をここまで持ってくるのが、今回の私の主たるミッションでした。



18:00 から official の表彰式。いつもはその closing ceremony では食事が出るそうですが、今回は食事は無しとのこと。公式の終了式は後援しているお役所（日本で言えば文科省とかスポー

ツ庁とか）の来賓の挨拶が長くて辛い。official の呈賞は沢山あり時間が掛かる。表彰式の最後は国対抗の解答競技の表彰。その時は国歌が流れ皆起立する。

9/9

チェックアウトを済ませて後は帰国するだけなのだが、フライトまでまだ9時間あるのでホテルのロビーで時間を過ごす。外は雨。一時猛烈な嵐。

17:50 にホテルを出る。空港について軽食。財布にはお釣りのコインが溜まっているが価値がよく分からない。海外旅行あるあるかも。店の兄さんに小銭を全部見せて数えてもらうと23.50 ラリだった。22 ラリのサンドイッチを買い余りはチップとする。後で調べてみると1000円ほどにあたる金額で高いサンドイッチでした。チェックインを済ませてセキュリティを通る。ジョージアはここが最後なので、ここの免税店で土産物を買うことにする。流石にここではカードで支払いが出来ました。

Batumi を出て一旦日本とは逆方向の西に向かい経由地のイスタンブールへ。時間があれば数日は観光したいところだがそれは次の機会に。それにしてもこの空港はとんでもない規模で驚いた。無茶苦茶広い上に深夜にも関わらずあらゆる人種の多くの人々が行き交っている。往路の時もそうだったが、子供と65歳以上限定でトランジットの手続きを優先するサービスがあった。最近はそれが普通なのか。帰路は航路表示によると、どうやらロシア上空を飛ぶようだ。実飛行時間は11時間程度。来る時は13時間く

らいかかっているのです、やはりそう言うことか。バス～マイカーと乗り継いで自宅に戻ったのは日が変わって9/11になっていました。

帰国後

私自身 Batumi のホテルで体調の悪さを感じたこともあり、コロナの可能性を疑い帰国後簡易検査キットでチェックしましたが一応陰性でした。その後若島先生のコロナ感染が判明した、ということでグレーではありますが、私経由で若島先生が感染した可能性もあり責任を感じています。

旅行中若島先生と色々お話したことが私にとって最大の楽しみでしたが、最後の表彰式中に私にとって衝撃的な内容がありました。30数年前詰パラフェアリーランドの担当をした時のことと、その後新聞や書物を通して得た知識とがきれいに私の中で繋がる体験でした。30年以上の伏線回収というべきもので、不思議さを感じています。

約1週間という期間と費用の問題がありますが、Chess Problem が大好きな方なら沢山の有名作家に会えるこの機会を逃す手はないでしょう。